

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590500015		
法人名	株式会社		
事業所名	グループホームライフ		
所在地	宮崎県小林市野尻町東麓1089番地1		
自己評価作成日	平成23年6月4日	評価結果市町村受理日	平成23年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4590500015&amp;SCD=320">http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=4590500015&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年6月24日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、楽しい雰囲気の中でその人らしく暮らせる場所がある。敷地内に小さな菜園を作り、利用者様、職員も一緒に野菜などを育て収穫した時の喜びを共に共有している。又、利用者様の行きたい場所へ積極的に出かけている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笑顔を絶やすことなく、地域の中で穏やかで安心した毎日が過ごせるようにとの理念を職員全員で作成し、実践に取り組んでいる。利用者も人生の先輩として尊敬の気持ちを持ち、何事にも接することを大切に、管理者は職員と共に力を注いでいる。開設間もないホームで若い職員が多く、コミュニケーションも十分に図られており、生き生きと働く様子が伺える。災害に対しては近隣住民の協力を仰いでおり、また、利用者一人ひとりの非常持ち出し用品を袋に詰め、すぐに持ち出せる備えもあり、より万全に近い対策が取れるように努力が重ねられている。今後ますます期待が持てるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、理念をミーティング等で話しあい共有し、意識して実践が行えるよう心がけている	全職員で作り上げた理念を常に意識し、管理者は理念の意義をミーティング等で話し合い共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	防災訓練など協力をもらっている。又、地域の掃除等にも地域の一員として参加している	地域の清掃活動に参加している。また、関連施設と合同の行事への参加の呼びかけを積極的に行うなど、地域住民との交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの防災訓練、併設施設合同の敬老会など参加を呼び掛け、協力をもらい理解や支援に努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様状況・行事・日常の様子などを報告している。会議で出た意見は、ミーティング時に報告しサービスの向上に努めている	2か月に1回開かれている。市職員、地域包括支援センター、地域住民、関連施設職員等の参加があり、多方面から広い視点での会議が開かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時に市の担当者へ連絡をしている。又、運営推進会議で様子などを報告している	運営推進会議に市職員の参加があり、連絡事項、ホームの近況報告や相談等が気軽にできる関係づくりが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修には参加していないが、資料等で認識を深め周知し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の意義を捉え理解している。気持ちを抑制する言葉かけにも十分配慮し、外へ出ようとする利用者の見守りの連携も出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で虐待について話をしている。今後は研修の機会を設け、周知徹底を図っていききたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されている方はいない。日常生活自立支援、成年後見制度の研修には参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行っている。不安や疑問な点などがないようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には必ず意見、要望がないか聞いている。また、意見箱を設け要望等を受ける体制を作っている	利用者、家族からの意見はほとんどない。意見が出ないことに満足することなく、管理者、職員は意見を引き出せる雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを開催している。そこで出た意見は受け止め、実践に役立てるようにしている	管理者は、常に職員に対し傾聴の気持ちを持って接し、出された意見を受け止め、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりその人に応じた助言、指導をし、勤務状況、実績を把握し、各自が向上心をもって働く事ができるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは積極的に参加している。又、復命書等で報告し、質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームの研修会等の際には、他の事業所の職員との意見交換を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の不安、寂しさなどの感情を全職員が受け止め、出来る限りその利用者様に関わる時間を作っている。又、本人、家族から今までの生活状況を聞くようになっている。本人との関わりを十分に持ち、信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族の意見、要望をしっかり聴いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に必要なサービスを提供できるよう職員間で話し合いをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活の中で得た知識を活かし、教えて頂きながら支えあう関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の様子等、面会時や電話等で報告している。職員で対応できない時には家族に協力をもらっている。又、2か月に1回通信を作成し、行事、日々の生活の様子を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ、買い物で地域に出かけ、関わりを持つようになっている。又、個々の行きたい所へ出かける機会を設けている。馴染みの方が面会に来られた際には、関係が途切れないようお願いしている	以前利用していた移動販売の車を見に行く利用者や、家族と一緒にいった場所に出かける等の支援を行っている。また、お盆やお彼岸にお墓参りの計画等もできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について把握し、心身の状態、日々の感情が変化する方、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が仲介役となり支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所先の関係者へこれまでのケア等の情報を提供している。又、可能な限り面会に行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や言動、表情から、暮らし方の希望、意向を出来る限り把握ができるよう努めている。家族から昔の生活状況を聞き、参考にしている	午前中に利用者と向き合い、じっくりと触れ合う時間を設けている。時間を十分取ることで、本人の思いをできる限りくみ取ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に本人、家族から伺ったり、日常生活の中で一人ひとりの生活歴、馴染みの暮らし方などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの様子、状態など記録している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングの中でケース検討を行っている。家族の面会時に近況の状況を報告し、その中で家族の意向の確認を行い、その意見はプランへ取り入れている	月1回開かれるミーティングの中で、職員の意見を検討し、利用者や家族の意向に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、本人の言動、行動を細かく記入し、職員間で情報が共有できるように努めている。又、記録を基にプランの見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列に病院がある為、医師、看護師との連携を密にしている。急変時には迅速な対応が取れるよう協力体制ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の店や消防署、警察署などの公共機関に積極的に出かけ、利用者の方々を理解して頂き、様々な場面で連携に繋がるよう取り組んでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全利用者の協力医がかかりつけ医となっており、いつでも往診、受診できる体制ができている。気づいた事等、相談できる関係を築いている	利用者全員が協力医の受診となっている。ホームの向かい側に病院があり、受診は職員の付き添いで行っている。入居以前から、利用者全員の主治医が協力医ということもあり、医師、利用者、ホームの連携も十分に取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルの変化、身体の状態の変化、又、気づいた事があれば、併設する有料老人ホームの看護師にその都度報告し、指示をもらい受診など行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院との情報交換を密にしている。又、なるべく病院の方へも面会に行き利用者と会話等をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針については家族の意向を聞いている。医療機関へ希望する家族が多い。今のところ看取りを行った事はない	看取りの指針は契約書にもうたっており、詳細にわたり指針の方向性につくられている。	ホームの契約書に指針の方向性は示されているが、職員の理解が十分ではない。関係者全員の話し合いの下に方針を共有し、共に支援に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練を行っている。心肺蘇生法、AEDの使い方等の研修に参加している。又、事故発生マニュアルを作成し、対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練、避難訓練を行っている。又、年1回消防署、近隣住民の方の協力をお願い、合同で避難訓練を行っている	定期的に近隣住民の協力を得て、避難訓練を実施している。また、利用者一人ひとりの非常持ち出し用品を袋に詰め、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の業務の中で尊重した言葉掛けができるよう常に指導している。排泄時にはカーテンを使用し、プライバシーの確保に努めている	利用者のプライバシーを傷つけない排泄誘導の声掛けや、部屋に入る時は必ずノックをすること、ドアが開け放してある際は、部屋の中が丸見えにならないように、各部屋にカフェカーテンをかけるなどのプライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう利用者の方の意思、自己決定を尊重できるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の状態、思いに気を配りながら、出来る限り希望に沿った支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来る限り本人に選んで頂いている。本人の希望を聞きながら支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、職員一緒に盛り付けなどを行い、話をしながら楽しく食事をしている。テーブル拭き等の片付けを行ってもらっている	食事は同じ建物の施設で調理したものが運ばれてくる。盛りつけや食台をふいたり、できる利用者と共に行っている。来訪者のある時や、家族の来訪時には、食事を後で取れるように配慮したり、また、一緒に各自の部屋で食事をしてもらう等の希望に沿った支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量のチェックを行い、少ない方には補助食品など、色々工夫しながら摂って頂くようにしている。一人ひとりに合わせて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導、見守り声掛けをしながら、出来ない方へは介助をしている。夜間は洗浄剤に浸けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、時間を見てトイレ誘導している。日中はオムツを使用せず、リハビリパンツで過ごして頂くようにしている	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を行っている。各部屋にトイレがあり、ゆっくりと用を済ませることにより、さらに自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用しながら水分量を調整したり、下剤の服用調整、腹圧マッサージや運動への働きかけなど行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回であるが、利用者一人ひとりの状態に合わせて、いつでも入浴できるようにしている	基本的に週に3回と入浴日が決められてはいるが、利用者の希望に合わせて毎日入浴できる体制が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時の状況に応じて、安心して眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに処方箋を綴り、目的、用法など確認、把握できるようにしている。毎日バイタルチェックを行い、状態の変化、気付いたことは、併設施設の看護師に伝え、主治医との連携がスムーズに行えるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭き、食事の盛り付け等、一人ひとりに応じた能力を活かせるよう努めている。定期的に外出支援を行ったり、希望に応じ買い物支援を行い、気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけたり、買い物、ドライブなど、出来る限り出かけるようにしている。本人の希望を聞き、出かけた所へ付き添い、出かける機会を設けている	寒さの厳しい日や酷暑の日は避けて、散歩に出かけている。散歩がてらに、車いす利用の利用者も火ばさみを使いながら、道路のゴミを拾ったり、地域の人々と話しながらの外出を楽しんでいる。時には少し足を延ばし、ドライブなどにも出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には職員が管理している。定期的に出納報告を行い、確認してもらっている。現在1名の方が少額ではあるが管理しており、買い物に出かけた際にはそこから支払い等をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話をかけたりする事ができるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には季節ごとの壁飾りを飾ったり、花を飾ったりし、居心地のよい共有空間づくりに努めている	ろうかには絵画や季節の行事や外出した時の写真などが貼ってある。中庭には季節の花が咲き、利用者の目を楽しませている。強い光の対策に、グリーンカーテンで遮る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士隣に座ってもらい、話等をしている。玄関先にはベンチを設置し、一人で過ごせるスペースがある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンス等を使用したり、行動しやすいようにベッドの位置など配慮している	各部屋共にその人らしく、ゆっくりと落ち着いて暮らせる居室になっている。中には使い慣れたタンスなどがあり、それぞれ自分に合った居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーに対応しており、各箇所には手すりが付いており、自立安全を確保した環境になっている。一人ひとりの能力に合わせて出来る事を行っている		